高潮水防の強化に関する技術検討会委員会 （第2回）
主なご意見等

<基本的な考え方>

- この手引きは誰向けのものなのか。
- 高潮災害には越波による災害と越流による災害があるなど、災害の事例を紹介した上で、高潮浸水想定を行うことが重要という説明が必要ではないか。

<最大規模の高潮の設定(低気圧)>

- 低気圧は停滞するため気圧と風速の影響が長期間続くという特徴をしっかりと書き込んでいただきたい。
⇒低気圧の経路・発達過程に時間的ファクターを追加してはどうか。
- 根室の低気圧は想定する低気圧として適当なのか。どの程度の発生確率なのか。
⇒低気圧の気圧について確率的なプロットを行い、根室の2014年というのがどういう位置付けにあるのか確認してはどうか。

<最大規模の高潮の設定(河川流量)>

- 想定最大規模の高潮による浸水想定を行う際の洪水の取扱いと、想定最大規模の洪水による浸水想定を行う際の高潮の取扱いについて、外力設定の考え方に整合性を図る必要がある。
- 上流側のインプット条件としては、実際にHWLを超えて流れてくる可能性があるため、そういったものを考慮する必要がある。また、上流からインプットしてくる境界条件としては、上流が決壊しないとした方が危険側になる。
⇒沿岸域に対して危険な側に計算をしていく必要がある。

<高潮浸水シミュレーション>

- 風場の計算に「気圧」を入れておいて欲しい。
- 計算領域区分の設定(ネスティング)にあたって、どのように大領域で朔望平均満潮位を一定に設定するのか。

<高潮浸水シミュレーション結果の出力>

- 浸水深だけでなく、波の影響についても、情報を記載してはどうか。
- どのように低平地の浸水継続時間を計算するのか。